

ラフバラ大学での学術交流プログラムに参加して体験したこと Experience at academic exchange program in Loughborough University

川西範明

Noriaki Kawanishi

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

Graduate School of Sport Sciences, Waseda University

スポーツ科学研究, 7, 76-77, 2010年, 受付日:2010年7月14日, 受理日:2010年7月14日

2010年6月7日から12日までイギリスのラフバラ大学 School of Sport, Exercise and Health Sciences を訪れ学術交流をさせていただきました。今回、私が本学術交流プログラムに参加しようと思ったのは、将来研究者を目指すものとして広い視野を持ちたかったこと、世界的にも有数のスポーツ科学研究に取り組んでいるラフバラ大学を自分自身で見てみたかったことでした。3日間と短い期間ではありましたが、日常とは異なり、多くのことが初めての経験であり、大変多くの事を学ばせていただきました。

一日目には、ラフバラ大学内にあるスポーツ競技施設を見学させていただいた。ラフバラ大学はロンドンオリンピックでの日本の事前合宿地として提携関係を結び、世界有数のスポーツ施設を有しており、また、ラフバラ大学はこれまでに多くのオリンピック選手を輩出し、イギリス代表選手の練習拠点になるなどスポーツ競技の発展に力を注いでいることもあり、広大なキャンパスに各競技専門の屋外競技場や体育館が数多く見られた。また、競技施設には動作解析用のカメラが設置されており、研究として使用されるだけでなく解析データをフィードバックすることで競技力向上をサポートする体制が確立されているようであった。また、研究室内に車いす専用のドレッドミルが

設置されており(写真1)、動作解析や生理・生化学的解析を行うなど障害者スポーツを積極的に支援する体制が見られた。

二日目には、主に生理学の実験内容を見学を行った。Myra Nimmo 先生の研究室ではヒトを対象とした運動介入によるメタボリックシンドロームに与える影響についての研究を行っており、現在我々の研究室が取り組んでいる研究内容に近く大変興味を持って実験についての説明を聞かせていただいた。また、当日は国内では見ることの出来ない、肥満者を対象とした脂肪組織のバイオブシーを見学させていただき、我々が行っている動物実験による基礎的研究と組み合わせることによって、応用研究として発展するための共同研究に取り組む切っ掛けとなればと考えている。

三日目には、研究内容について口頭発表を行った(写真2)。これまで、国際学会でのポスター発表の経験はあったが、英語での口頭発表は初めての経験であり大変緊張した。質疑応答では、適切な回答ができなかったが、発表後に運動免疫学の研究に取り組んでおられる Mike Gleeson 先生に直接ディスカッションさせていただける機会があり、アドバイスをいただくことができた。また、ラフバラ大学の博士課程学生の発表を聞かせていただき、ネイティブな英語による発表は今後国際学会

で発表する良い参考となった。今回、研究を発表する機会を与えていただき、自分自身の研究についても新たな視点からの意見を多くいただき大変有意義であった。また、研究内容の紹介以外にも、ラフバラ大学の学生と積極的に交流する機会を持ち、自分自身の研究だけでなく異なる研究内容にも非常に興味を示すなど、熱心に研究に取り組む姿勢を感じ取ることができた。今後は、今回の学術交流プログラムの経験を生かして、英語によるコミュニケーション能力を向上させるとともに、ラフバラ大学との国際共同研究が推進していける

よう取り組んでいければと考えている。

最後になりましたが、学術交流プログラムに参加する機会を与えていただきました早稲田大学スポーツ科学学術院彼末一之先生、中村好男先生に感謝致します。また、学術交流プログラム企画および運営に尽力していただいた研究院助教・次席研究員宮下政司先生、Myra Nimmo 先生をはじめとするラフバラ大学の先生方、大学院生の皆様に心より感謝いたします。

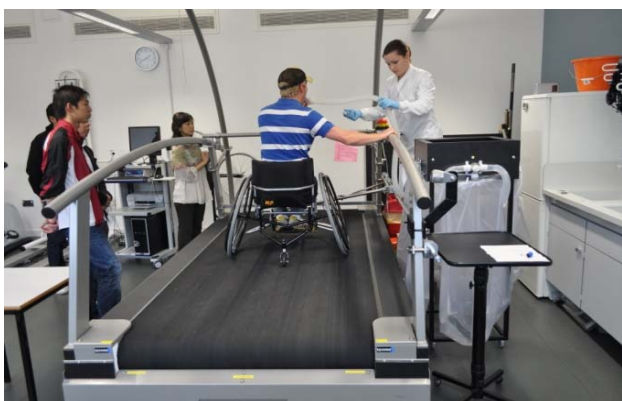


写真1 車いす専用のドレッドミルを用いた生理学実験



写真2 学術交流プログラムにおける研究発表の様子